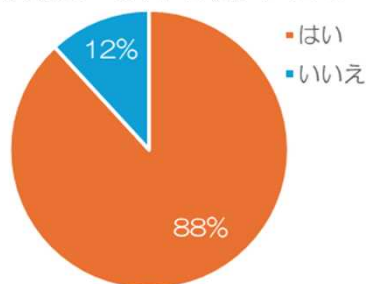


お店アンケート

回答数93（回収率93%）

以前からの持ち帰りの取組

■以前から持ち帰りをしていたか



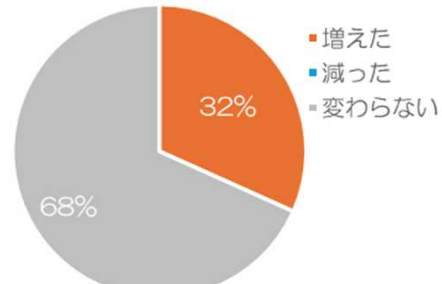
■容器はいくらで提供していたか

73%が無料で提供、有料の場合は5円から100円と幅がある

■月にどれほど持ち帰りがあったか

0～100件と幅があり、平均は約12件

■事業により件数に変化はあったか

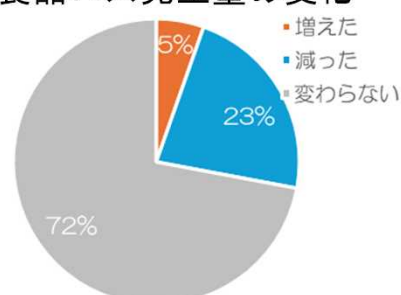


モデル事業の効果

■持ち帰り件数

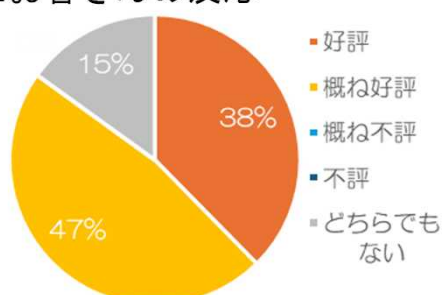
合計4,496件（10月:1,126件,11月:1,092件,12月:1,377件,1月:901件）

■食品ロス発生量の変化



1店舗当たり約680グラム減少(4か月)

■お客さんの反応



■お客さんの具体的な反応等

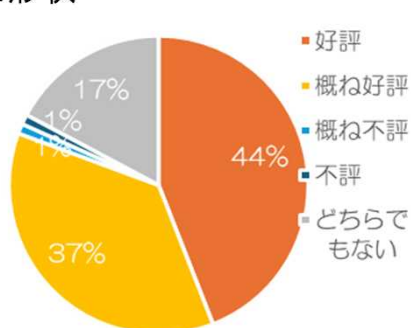
- ・これからも持ち帰りしたい
- ・容器や紙袋が立派
- ・もったいないと思っていたので良い取組

■持ち帰ったお客さんの性別・年代

- ・男性33%,女性67%
- ・30代以下13%,40～50代43%,60代以上44%

持ち帰り容器

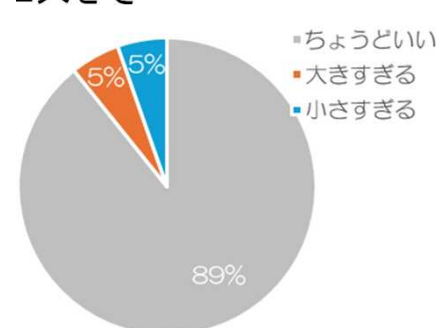
■形状



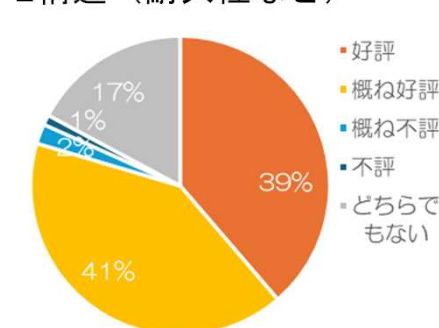
■容器に対する要望

サイズは複数あってもいい、昨年度より使用しやすくなった

■大きさ

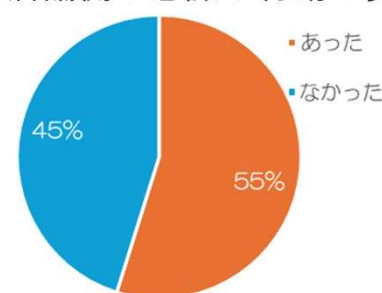


■構造（耐久性など）



店舗から見たモデル事業

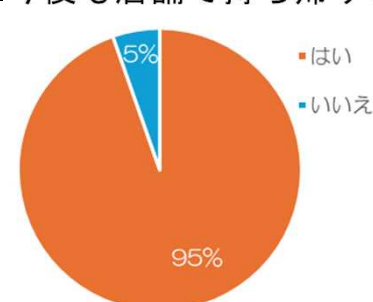
■店舗側の意識や行動の変化



■店舗独自で工夫した取組

- ・積極的なコミュニケーション
- ・目立つ場所への啓発物の掲示
- ・食べきれる量での注文の依頼
- ・食品衛生に係る声かけ

■今後も店舗で持ち帰りを行いたい



持ち帰りの普及に向けて

■普及させていくための効果的な取組の考え

- ・共通した普及啓発資材の使用
- ・広報の強化
- ・食べ物を大事にする考え方の浸透
- ・継続して取組を続けていくこと

■行政に支援して欲しいこと

- ・容器の配布 70%
- ・啓発資材の提供 20%
- ・持ち帰りしやすい環境の整備 26%
- ・持ち帰りについての普及啓発 26%

■モデル事業を実施して良かったことや苦労したこと等

- ・お客さんに食事の時にコミュニケーションをとりながら楽しく食事をしてもらえた
- ・容器に詰めるのに時間がかかったので、持ち帰りを考慮した宴会等を検討したい
- ・詰めるのに手間取ったが、お客さんに持ち帰れることを大変喜んでいただけた
- ・お客さんが持ち帰ることを口に出して言いづらい様子が見られた
- ・適量を注文することや食べきることを推奨してはどうか

【アンケート結果の考察】

- ・参加店舗が100で、実績も4,496件と令和5年度より大幅に増加したことから、県内で持ち帰りについて一定の普及啓発ができたと考えられる
- ・以前から持ち帰りを実施している店舗が多かったものの、準備した資材により、今まで以上に食品衛生に配慮した取組とすることができたと考えられる
- ・今後も持ち帰りを行いたいとする店舗が95%と回答があり、モデル事業としての成果と考えられる
- ・モデル事業に参加したことで食品ロス削減を意識づけることができたと考えられる